

会場

IOCのバッハ会長と安倍総理が福島県のあづま球場などを視察

2018年11月26日



握手するバッハ会長と安倍総理

2018年11月24日（土）、トーマス・バッハ国際オリンピック委員会（IOC）会長と安倍晋三内閣総理大臣が、東京2020オリンピック野球・ソフトボール競技の会場になっている福島県営あづま球場などを視察しました。

バッハ会長はまず、あづま総合運動公園内にあるあづま総合体育館で、バドミントンの福島県高等学校新人体育大会を選手たちと観戦。その後、同体育館内で福島県の高校球児や、福島県野球団体協議会、福島県ソフトボール協会の方々と交流しました。

続いて同公園内にあるあづま球場に移動したバッハ会長は、同じく視察に訪れていた安倍総理と懇談。県内で野球やソフトボールを行っている子どもたちから歓迎セレモニーで花束を贈呈されると、笑みを浮かべていました。またフィールド内で内堀雅雄福島県知事から受けていた説明にうなずきながら聞き入っていました。



野球・ソフトボール競技が行われるあづま球場

今回の視察を受けて、バッハ会長と安倍総理は以下のように、コメントしました。

トーマス・バッハIOC会長コメント

「この会談が福島県で行われているということは極めて象徴的です。復興が大きな進捗を遂げているということ、福島県の皆様が精神的な復興を果たしていることを強く印象づけています。このような心の面での復興を遂げるという中で、スポーツは大きな役割を果たしました。私たちはだいぶ前に野球・ソフトボール競技を福島でできるものなのかということを議論しましたが、まさにあの時の考えは正しかったということがより説得力を持って思い起こすことができます。すなわちスポーツがこのような復旧・復興に大きく貢献したということの1つの頂点に達したのが今回ではないかと思っています。またこのような努力をする中で総理のコミットメント、パートナーシップそしてサポートがあるということに心より御礼申し上げます。まさに東京2020大会を成功させるという総理自らのコミットメントも示してくれました。そのような努力において、安倍政権の閣僚の皆様からもご協力を得られるというのも総理自らのコミットメントがあるおかげです。これからもこのようなパートナーシップが継続されるものと確信しています」



安倍晋三 内閣総理大臣コメント

「東京2020オリンピック・パラリンピックは復興五輪ということで、復興した姿を世界に発信したいと思っています。バッハ会長のおかげで野球・ソフトボール競技の試合をこのあづま球場で行うことができるようになりました。バッハ会長にあづま球場を訪問していただいて本当にうれしく思います。開催まで2年を切っていますが、素晴らしいオリンピックとなるようにしたいと思っています」



- [組織委員会について](#)
- [お問い合わせ](#)
- [ウェブアクセシビリティについて](#)
- [リンク](#)
- [利用規約](#)
- [個人情報保護方針](#)
- [クッキーポリシー](#)
- [サイトご利用にあたって](#)
- [サイトマップ](#)
- [報道関係者の方へ](#)

©公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
All rights reserved.

写真提供：

アフロススポーツ ゲッティイー イメージズ フォト・キシモト 竹見脩吾